

1998年11月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球500 hPa 高度場をみると、極渦は分裂し、北極付近は顕著な正偏差に覆われた。一方、シベリア南部から極東、ベーリング海にかけては負偏差が広がった。日本付近やヨーロッパ東部も負偏差に覆われた。ヨーロッパ北部ではブロッキング高気圧が現われた。帯状平均東西風をみると、40°N～50°N にかけてはジェット線の集中がみられた。200 hPa 速度ポテンシャルでは、大規模な発散域がカリマンタン島からニューギニア島にかけて存在し、平年と比べて20度ほど西に偏っていた。熱帯の対流活動はインド洋東部から海洋大陸にかけて引き続き平年より活発だった。対流活動が活発な領域はオーストラリア北部沿岸まで広がった。一方、インド洋中部と太平洋西部から中部にかけては平年より不活発だった。太平洋赤道域の東西循環は平年よりも強く、SOI（南方振動指数）は+1.0と6か月連続して+1.0以上となった。

世界の天気

① ヨーロッパからシベリアにかけての低温

月平均気温はヨーロッパでは一部を除いて低く、特にヨーロッパ東部やロシア西部でかなり低かった。また、シベリアでもかなり低かった。ロシアのエカテリ

ンブルクで -12.8°C （平年差 -7.1°C ）。下旬にはヨーロッパの広い範囲で寒波や大雪による被害が伝えられた。

② アジアの高温

月平均気温はアジアの大部分でかなり高かった。中国のウーハン（武漢）で 15.2°C （平年差 $+4.0^{\circ}\text{C}$ ）。

③ 中国中部から日本にかけての少雨

降水量は中国中部から日本南部にかけては少なかった。中国のイーチャンで0 mm（平年値：59.1 mm）。中国東部の江蘇省で干ばつの被害が報じられた。

④ カナダ北部の高温

月平均気温は北米のほとんど全域で高く、特にカナダ北部でかなり高かった。カナダ・ビクトリア島のケンブリッジベイでは -15.4°C （平年差 $+8.3^{\circ}\text{C}$ ）。

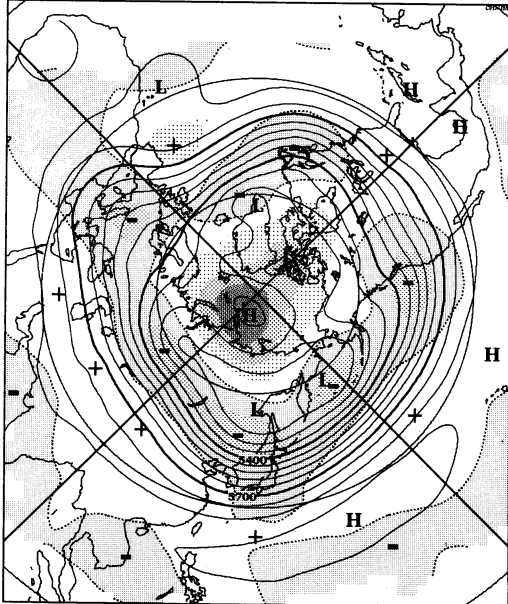
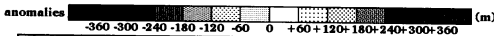
⑤ 合衆国北西部の多雨

降水量は、シアトルで295 mm（平年比173%）となるなど合衆国北西部や中米のカリブ海側で多く、合衆国東部で少なかった。

⑥ 合衆国東部の少雨

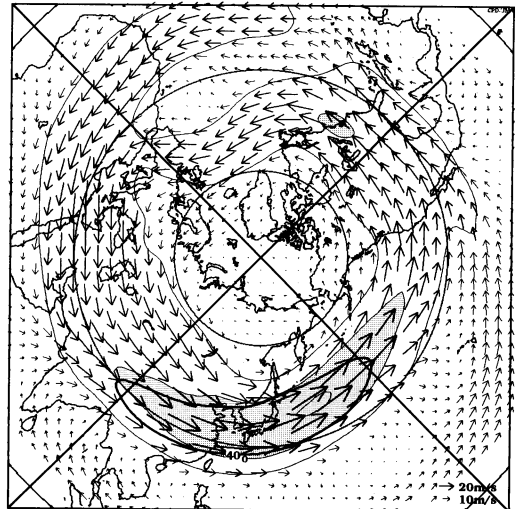
⑦ 中米・カリブ海諸国の高温

（気象庁気候・海洋気象部気候情報課 徳広貴之）



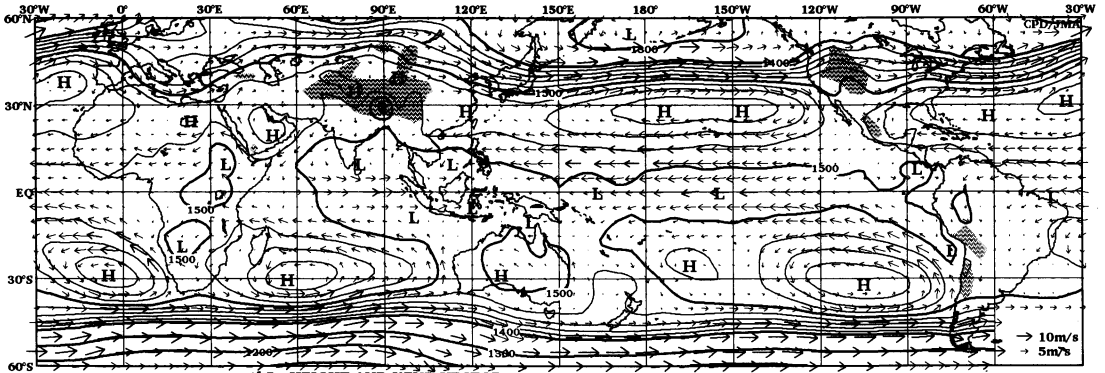
1998年11月の北半球月平均500 hPa 高度および年偏差

等値線間隔は60 m、偏差パターン間隔は60 m、平年値は1961～1990年のデータに基づくもの。

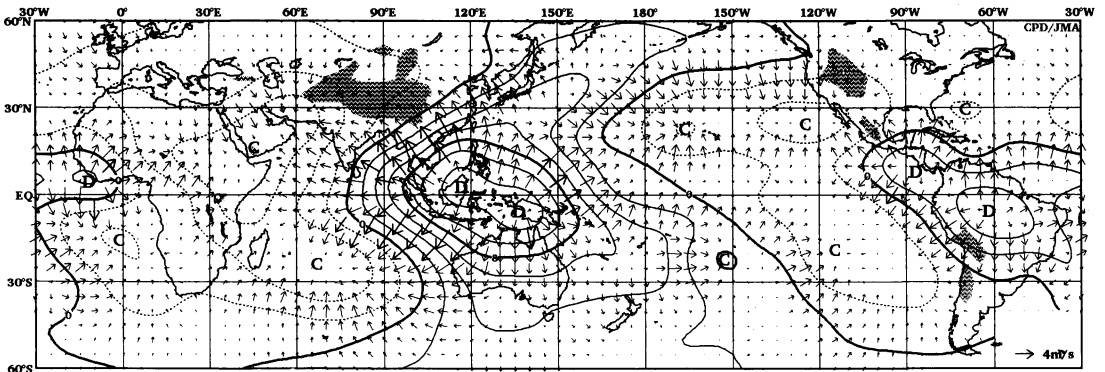


1998年11月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

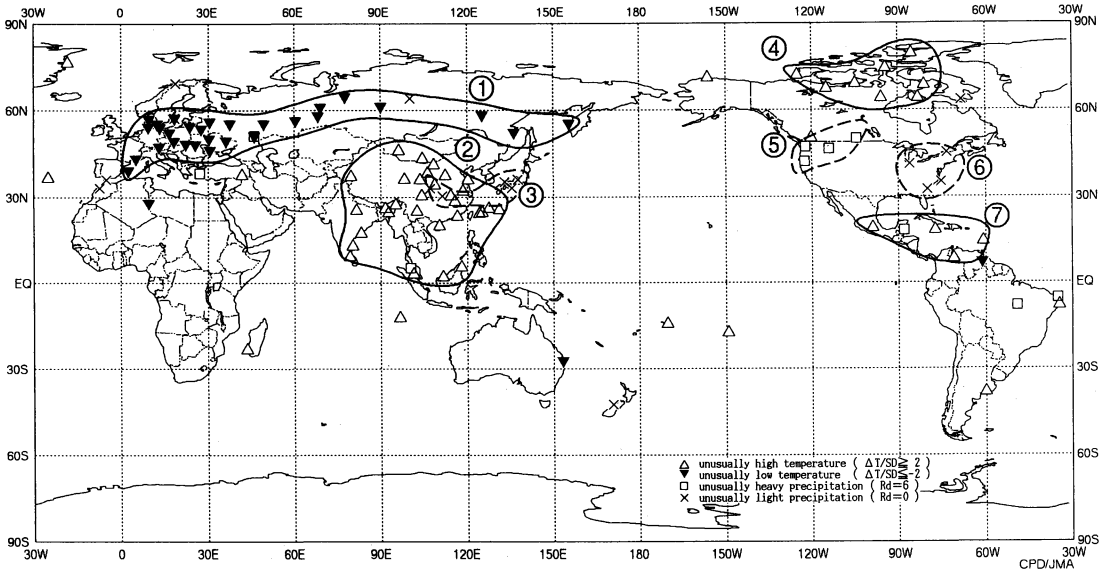
等値線間隔は20 m/s、陰影部は平年で40 m/s以上、平年値は1979～1996年のデータに基づくもの。



1998年11月の月平均 850 hPa 高度および風ベクトル 等値線間隔は 20 m (1400 m までは 100 m)



1998年11月の月平均 200 hPa 速度ポテンシャルおよび発散風ベクトル 等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$



1998年11月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の2倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0. 図中の番号は本文中の番号と対応している.